

地震の陰にひそむ「もう一つの災害」

地震による火災の過半数は電気が原因という事実をご存知でしょうか？

東日本大震災における本震による火災の原因のうち原因が特定されたものの過半数が電気関係の出火でした。

大きな地震が発生し自宅が停電。あわてて外に避難した後の誰もいない部屋には「電気火災」の危険がひそんでいます。今回は地震が引き起こす火災を防ぐポイントと感震ブレーカーについて紹介していきます！

地震火災を防ぐポイント

事前の対策

- 家具等の転倒防止対策（固定）を行う
- 感震ブレーカーを設置する
- ストーブ等の暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かない
- 住宅用消火器等を設置し、使用方法について確認する
- 住宅用火災警報器を設置する

地震直後の行動

- 停電中は電化製品のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜く
- 石油ストーブやファンヒーターからの油漏れの有無を確認する
- 避難する時はブレーカーを落とす

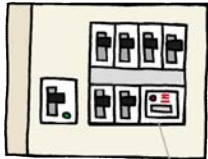

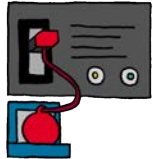
地震からしばらくして（電気やガスの復旧、避難からもどったら）

- ガス機器、電化製品及び石油機器の使用を再開するときは、機器に破損がないこと、近くに燃えやすいものがないことを確認する
- 再通电後は、しばらく電化製品に異常（煙、におい）がないか注意を払う

感震ブレーカーとは

感震ブレーカーとは、大きな揺れを感知した際に自動的にブレーカーを落とし、電気を止める装置です。地震による電気火災や通電火災を防ぎ、地震発生時の二次災害防止に役立ちます。

感震ブレーカーの種類

分電盤タイプ（内蔵型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
		
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの動作や重りの落下によりブレーカーを落として電気を遮断。
電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が必要

※分電盤タイプは作動の信頼度が高く、震度設定等も確実に行えます！

⇒感震ブレーカーは電気火災を防げる有効な装置ですので設置を検討し、火災からご家庭を守りましょう！！

沼田町
防火標語

『火の用心 「後で」と「今」で 変わる未来』

火事・救急は119番へ！

